

## SQL 応用 ～研修受講後テスト 解答～

## ■問題1【SQLのコーディング】

可読性の説明で誤っているものを選んで下さい。

- コメントを残すことでデバッグが容易になる。
- 表名、列名に日本語名は使用できない。
- コーディングの規約を作成し、担当者間で共有すべきである。
- 表や列の役割・意味が判別できるような名前を定義すべきである。

<テキスト掲載箇所>序-3 ～ 序-5、序-8

## ■問題2【条件分岐】

CASE 式の記述について、一番相ふさわしいものを選んで下さい。

- CASE WHEN no = 1 THEN 'YES'  
END
- CASE WHEN no THEN 'YES'  
ELSE NULL  
END
- CASE WHEN no = 1 THEN 'YES'  
ELSE NULL  
END
- CASE WHEN no = 1 THEN 'YES'  
ELSE NULL

<テキスト掲載箇所>1-3 ～ 1-5

## ■問題3【条件分岐】

条件分岐関数の説明で、誤っているものを選んで下さい。

- COALESCE関数は列順にNULLの存在を確認できる。
- COALESCE関数はNVL関数と同じように、NULLを他の値に置き換えることができる。
- NULLIF関数は、NULLを他の値に置き換えることができる関数である。
- NULLIF関数を使用すると、ゼロ除算を回避できる。

<テキスト掲載箇所>1-11 ～ 1-16

**■問題4【条件分岐】**

MERGE 文の説明で正しいものを全て選んで下さい。

- ON句で、比較する双方の表の列を指定する。
- UPDATE対象がターゲット表、INSERTの対象となるのがソース表である。
- MERGE INTO 句でビューを指定することはできない。
- ターゲット表に対するDML文では、表名を明示的に指定しない。

<テキスト掲載箇所>1-17 ~ 1-22

**■問題5【値の集計・分析】**

列値が一意かどうか確認する HAVING 句の条件で正しいものを選んで下さい。

- count(\*) > count(列名)
- count(\*) = max(列名)
- min(abs(列名)) = 0
- count(DISTINCT 列名) = count(列名)

<テキスト掲載箇所>2-6 ~ 2-12

**■問題6【値の集計・分析】**

分析関数の説明で誤っているものを選んで下さい。

- 分析関数はもともとの行数を保ったままグループに対する分析処理を行う。
- PARTITION BY句を省略した場合、検索結果全体が1つのグループとして扱われる。
- 集約関数を分析関数として使用する場合、関数名の引数には列名を指定せず()のまま指定する。
- DENSE\_RANK関数を使用する場合、同意が複数あっても順位は飛ばない。

<テキスト掲載箇所>2-13、2-17、2-21

**■問題7【値の比較】**

相関副問合せの説明で誤っているものを選んで下さい。

- 相関副問合せを実行するには、副問合せ内で主問合せを参照する。
- 相関副問合せはパフォーマンスが問題になるため、通常は使用しない。
- 相関副問合せの処理を分析関数で代替できる場合は、分析関数を使用した方が良い。
- 相関副問合せを実行する際は、副問合せと主問合せは異なる表から検索する。

<テキスト掲載箇所>3-3 ~ 3-8

**■問題8【値の比較】**

EXISTS 述語の説明で誤っているものを選んで下さい。

- EXISTS述語に続く副問合せの選択リストでは、どのような列を指定してもエラーにはならない。
- EXISTS述語は値の存在有無のみの確認のため、主問合せ側のWHERE句には比較対象列は指定しない。
- EXISTS述語使用時は、内部的に副問合せの結果全てと値の比較を行っている。
- EXISTS述語とCASE式を組み合わせることで、値の存在有無で処理を分岐できる。

<テキスト掲載箇所>3-11 ~ 3-13、3-17、3-18

**■問題9【NULLの取り扱い】**

データベースから NULL を排除する方法について誤っているものを選んで下さい。

- 列にNOT NULL制約を定義する。
- 列にDEFAULT句を定義する。
- 列内のNULLを他の値に置き換える。
- COALESCE関数でNULLを他の値に置き換える。

<テキスト掲載箇所>4-5、4-6

**■問題10【NULLの取り扱い】**

NULL 取り扱いの説明で正しいものを全てを選んで下さい。

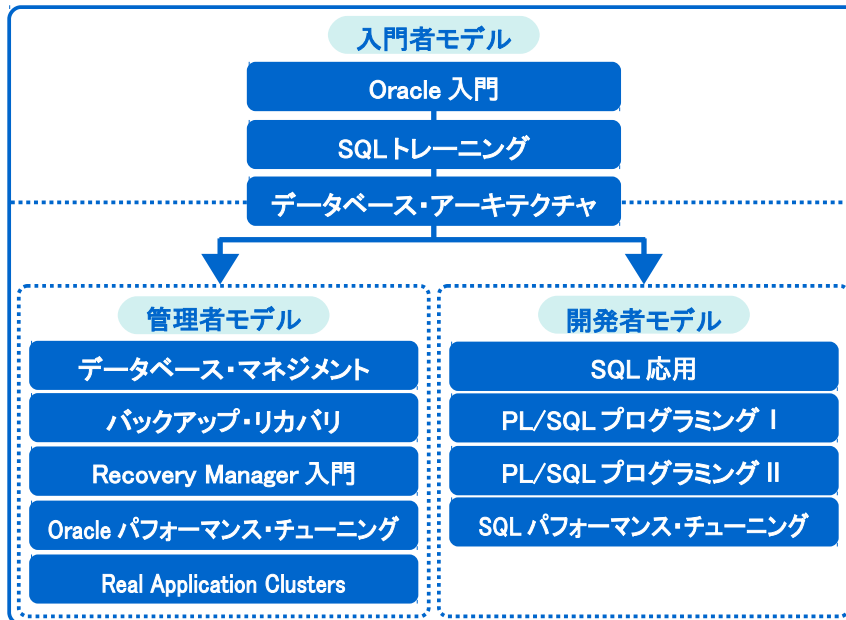
- NOT EXISTS述語に続く副問合せの結果にNULLが含まれていると正しい結果が表示されない。
- ALL述語に続く副問合せの結果にNULLが含まれていると正しい結果が表示されない。
- ソートを行うと、NULLが一番小さな値として扱われる。
- 外部結合を行うとNULLが発生するため、COALESCE関数などでNULLを他の値に置き換えることを検討する。

<テキスト掲載箇所>4-7 ~ 4-18

**I** nformation

アシスト Oracle 研修内容の詳細については下記ページをご覧ください。  
<http://www.ashisuto.co.jp/ojt/course/oracle/>

**ア**シスト Oracle 研修受講モデル



<入門者モデル>

Oracle の基本構造や SQL の基礎構文など、Oracle の全体像を理解できます。新入社員や異動された方など、これから Oracle に携わる方にぴったりのモデルです。

<管理者モデル>

管理者として必要な運用管理タスクの理解やバックアップリカバリ、システムチューニングの技術を習得できます。

<開発者モデル>

Oracle を使用した開発に必要な PL/SQL の習得、索引や SQL 記述方法などによる SQL チューニング技術を習得できます。

※研修内容についてご質問がございましたら、お気軽にお問い合わせください。

アシスト教育部：【TEL】0120-874-337 / 【FAX】0120-874-437/ 【E-Mail】[edusup\\_ora@ashisuto.co.jp](mailto:edusup_ora@ashisuto.co.jp)